

平成27年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	てんかん病態ダイナミクスの多面的計測による理解と局所脳冷却による制御
研究代表者	鈴木 倫保（山口大学・大学院医学系研究科・教授）
研究期間	平成27年度～平成31年度
審査結果の所見	<p>本研究は、局所脳冷却による難治性てんかんの新しい治療法の確立を目指すものである。すなわち、てんかん病態に潜む病的ダイナミクスを多面的に計測し、正常脳から病態脳への遷移過程を捉えて、治療の介入時期を察知し、局所脳冷却による脳制御を可能とする基盤を確立しようとしている。これまで応募者は世界に先駆けて、局所脳冷却による難治性てんかんの治療を展開してきた。本研究は、これまでの研究成果を基盤として、脳波、脳温、脳循環代謝、頭蓋内圧の多面的脳情報を計測するマルチモーダルセンサを開発し、病態ダイナミクスの解析・予測により、的確な治療を行おうとするものである。このように、本研究は、当該研究分野をリードし、日本が世界に誇れる研究であり、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>